

◎ 「絆」「桜の季節」 アルカスに響く！ ～第36回佐世保市中学校音楽発表会～



「絆」を歌う 2年1組



「桜の季節」を歌う 3年3組

11月15日(水)、アルカス佐世保の大ホールに、2年1組が歌う「絆」と、3年3組が歌う「桜の季節」の美しいハーモニーが響きました。

今回で36回目となる「佐世保市中学校音楽発表会」。今年度からは「佐々町立佐々中学校」も加わり、全部で30校の中学校が参加しました。ほとんどの学校が合唱を披露する中で、小規模校の浅子中学校は「打楽器演奏」を、黒島中学校は「トーンチャイム演奏」を、そして県立ろう学校佐世保分校は柚木中学校と合同で「手話」を使った合唱を披露しました。

人類の誕生とともに声や手拍子で音楽らしいものが始まり、動物の骨で作られた最初の管楽器は36000年前の洞窟の地層から発見されているそうです。音楽は「音を楽しむ」と書きます。長い人類の歴史の中で、その風土に応じた様々な音楽が生まれ、人はその音楽を楽しみながら育ててきました。今回の音楽会の主題も「豊かな表現力と音楽の喜びを求めて」と設定されています。中里中学校を代表して出場した2つのクラス。そのすばらしい発表に心から拍手を送りたいと思います。また、みんなで作り上げた合唱曲が、勇気を与えてくれる宝物として、いつまでも心の中に残ってくれることを祈ります。

◎ 「居住地校交流」事業！

あまり耳慣れない言葉ですが、特別支援学校に通う子どもたちが、自分の住む小・中学校で児童生徒とふれあう活動です。

今年度は、佐世保特別支援学校から2名の生徒との交流依頼があり、本日、1年生と一緒に「風船バレー」で交流しました。同じく今日は、体育文化館で市内の中学校の特別支援学級運動会も開催されました。現在、市内の中学校には40学級の特別支援学級が開設され、107名の生徒が在籍しています。年々、その数が増加していることは、特別支援教育への理解が進んでいる表れだと思います。障がいへの支援は、できるだけ早期に始めるとその効果が高いと言われます。まだまだ、障



がいに対する偏見がなくなるには残念です。特別支援教育への大人や地域の理解が一層進み、「障がいがあることは不便だけれど不幸ではない」と言える地域・社会を、みんなで作っていく努力が必要だと強く思います。

◎ 中里中に14名の外国人が来校！

～ Sasebo イングリッシュキャンプ～

市内のすべての中学1年生を対象にした「イングリッシュキャンプ」が、今日中里中からスタートしました。これは、英語のコミュニケーション能力の育成をめざし、今年度から新たに始まった佐世保市の事業の一つです。

1年生は14班に分かれ、各班に一人の外国人の先生がついて、英語で自己紹介や佐世保の特産物の紹介を行いました。間違いを恐れず、積極的に自分の思いを英語で伝えることがめあてです。生徒たちは知っている限りの英語を駆使して、英語でのコミュニケーションに、楽しみ



ながら頑張りました。一番パニックになったのは、突然14名の外国人の方々が来室され、日本語が使えなくなった校長室の私でした。